

■ 平成15年度事業概要 ■

I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業

寄附行為第4条第1号に掲げる事業は、次のとおり行った。

●寄贈資料受入れ総数（図書・雑誌及び特別資料）	4,940点
●購入図書・雑誌	1,159点
●その他の購入特別資料	66点
●レプリカ作成・VTR、テープ、CD	4点

（別掲の統計・資料編資料編「資料収集状況」欄参照）

整理・保存	カード作成及び収蔵資料のコンピュータ入力並びに収蔵資料の寄贈・寄託目録作成等
閲覧	利用者 延べ 3,486人

II 文学に関する展覧会・文芸講演会等の開催事業

寄附行為第4条第2号に掲げる事業は、次のとおり行った。

1 展覧会事業

(1) 常設展「北海道文学の流れ」

会期	通年
会場	北海道立文学館常設展示室
入場者	10,006人

展示の構成・内容は開館当時のものを踏襲しているが、常設展示室内に開設している特設コーナーでは、本年度の収集資料から「発見された草野心平直筆原稿～長光太旧蔵資料より～」を実施した。

以下に、展示編成の基本を掲げておく。なお、〔 〕内は監修者名を示す。

〈札幌農学校と有島武郎〉〔高山亮二〕

このコーナーでは、ウィリアム・S・クラークの事蹟によって広く知られている札幌農学校（現、北海道大学。明治9年開校）の存在と活動を紹介するとともに、その農学校に学び、のちに母校の教壇に立って多くの後進を育成し、文学者・思想家として日本近代史に刻まれる仕事を残した有島武郎について、内村鑑三、新渡戸稲造、森本厚吉、ティルダ・ヘックらとの交流を含め、通算12年間にわたる本道在任期の足跡を概観した。

〈北海道文学の流れ―明治・大正期〉〔木原直彦〕

このコーナーで取り上げた主な文学者・関連人物名、事項名は次のとおりである（以下同）。

* 「空知川の岸边」国木田独歩

国木田独歩、佐々城信子

* 開拓期を彩る作家群

岩野泡鳴、幸田露伴、長田幹彦、島崎藤村、葛西善蔵、徳富蘆花ほか

* 漂泊の人・石川啄木

石川啄木、石川節子、橘智恵子、野口雨情ほか

* 有島武郎をめぐる人々

有島武郎、有島生馬、里見淳、武者小路実篤、志賀直哉

* 道産子作家誕生

武林無想庵、岡田三郎、森田たま、中戸川吉二、中村武羅夫、子母沢寛、素木しづ、長谷川海太郎

* 同人雑誌群

「路上」「路傍人」「君影草」「白夜」「歩み」ほか

* 来道作家の足跡（大正期）

文学地図（足跡図）—吉屋信子、宮本百合子、橋外男、宮沢賢治、宇野千代、長田幹彦、久米正雄ほか

〈北海道文学の流れ—昭和前期〉〔西村信〕

* プロレタリア文学の潮流

葉山嘉樹、小林多喜二、久保栄、小熊秀雄、島木健作、本庄陸男ほか

* 若い詩人の肖像

伊藤整、川崎昇ほか

* 来道作家の足跡（昭和前期）

芥川龍之介、里見淳、鶴田知也ほか

* 農民文学の世界

吉田十四雄、辻村もと子、板東三百、早川三代治、坂本直行ほか

* 戦時下の文学

林容一郎、中津川俊六、八木義徳、寒川光太郎ほか

〈北海道文学の流れ—昭和後期〉〔神谷忠孝〕

* 戦後文学の展開

風巻景次郎、武田泰淳、宇野親美、中沢茂、澤田誠一、木野工ほか

* さまざまな座標Ⅰ

船山馨、亀井勝一郎、八木義徳、和田芳恵、長谷川四郎、李恢成、重兼芳子、高橋揆一郎、小檜山博ほか

* 旋風をおこした作家たち

原田康子、三浦綾子、渡辺淳一

* さまざまな座標Ⅱ

荒巻義雄、藤堂志津子、佐藤泰志、川又千秋、佐々木譲、土居良一ほか

* 来道作家の足跡（昭和後期）

福永武彦、戸川幸夫、新田次郎、水上勉、開高健、大江健三郎ほか

* 活躍する作家たち

三浦清広、加藤幸子、沖藤典子、久間十義、見延典子、辻仁成、谷村志穂

〈北海道の詩〉〔原子修ほか〕

* 北海道の詩の黎明—20世紀前半—

吉田一穂、小熊秀雄、更科源蔵、伊藤整ほか

* 現代詩人の台頭

和田徹三、河邨文一郎ほか

* 日本の詩界での活躍

上林猷夫、桜井勝美、風山瑕生、武田隆子、原子修、鷺巣繁男ほか

* 新しい詩と詩論の展開

北海道詩人協会の創設、道内詩誌の現況、各賞受賞者

〈北海道の短歌〉〔田村哲三〕

* 北海道歌壇の動き

山下秀之助、酒井広治、小田観螢、中城ふみ子ほか

* 来道歌人

斎藤茂吉、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤史、宮柊二ほか

* 口語短歌

鳴海要吉、石川啄木ほか

* アイヌの歌人

バチラー八重子、遠星北斗、森竹竹市ほか

〈北海道の俳句〉〔木村敏男〕

* 北方俳句の夜明け

松窓乙二、河東碧梧桐、牛島藤六、高浜虚子、長谷川零餘子、臼田垂浪、石田雨圃子、青木郭公ほか

* 俳句近代化への潮流

荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐鍊太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか

* 花ひらく北の俳句

斎藤玄、寺田京子、比良暮雪ほか

* 俳句の現代

比良暮雪、佐々木丁冬、鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

〈アイヌの口承文芸〉〔藤本英夫〕

金田一京助、知里真志保、久保寺逸彦、金成マツ、知里幸恵、萱野茂

〈北海道の川柳〉〔斎藤大雄〕

* 明治～昭和前期

鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西嶋〇丸、田中五呂八ほか

* 昭和後期～平成7年

西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子

* 北海道の川柳社

道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介。

〈北海道の児童文学〉〔柴村紀代〕

* 明治～昭和20年代

伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか

* 昭和30年代

石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか

* 昭和40年代以降

加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

〈千島・樺太の文学〉〔木原直彦〕

夏堀正元、吉村昭、李恢成、寒川光太郎ほか

(2) 企画展・特別企画展（※印の事業は財団の独自企画のものを示す）

●特別企画展「生誕100年記念 林芙美子展」

会 期 平成15年7月12日（土）～8月24日（日）（38日間）

会 場 北海道立文学館特別展示室

入場者 3,630人

特別企画展「生誕100年記念 林芙美子展」は、2003年に生誕100年を迎えた林芙美子の仕事と歩んだ道のりを、豊富な写真と実物資料とで展示したもの。自筆原稿をはじめ、書簡、油彩画、愛用品、関係図書などが、作家・林芙美子の生涯を物語った。なかでも、林芙美子の1934年初夏の北海道・樺太の旅に焦点を当てたコーナーでは、それまで重視されてこなかったこの体験が、芙美子にとってパリへの旅以上に印象深いものであり、北方に暮らす人々を身近に感じることでその創作意欲をかき立てられた事実が展示紹介され、好評であった。

●特別企画展「函館・青森 海峡浪漫～〈北の20世紀〉を紡いだ作家たち～」

会 期 平成15年11月1日（土）～12月14日（日）（38日間）

会 場 北海道立文学館特別展示室

入場者 1,004人

特別企画展「函館・青森 海峡浪漫～〈北の20世紀〉を紡いだ作家たち～」は、津軽海峡をはさんで接する函館と青森に焦点をしばり、青函トンネル着工以前の時代を生きた作家たちを取り上げ、明治末から大正・昭和の歴史的なドキュメントを文学の枠組みを通じて紹介した。紹介された作家も島崎藤村、石川啄木から林不忘、長谷川四郎、亀井勝一郎など多岐にわたり、反響の大きい展覧会となった。今後、函館市、青森市での巡回展も計画されている。

（企画展）

●企画展「詩人・百田宗治の戦後～北海道に残したもの～」

会 期 平成15年2月7日（土）～3月21日（日）（38日間）

会 場 北海道立文学館特別展示室

入場者 938人

企画展「詩人・百田宗治の戦後～北海道に残したもの～」では、当館が収集した百田宗治関連資料を中心に、百田と戦後北海道の若い詩人や作家たちとの交流、上川管内安足間（現・愛別町愛山）の人々とのつながり、絵本「にれの町」（絵・小野州一）などの仕事を紹介し、疎開作家であった百田宗治が北海道の文学史に残した足跡を検証した。百田宗治ゆかりの人々も多く訪れ、活気ある展覧会であった。

※企画展「フォスコ・マライーニ写真展～東洋への道～」

会 期 平成15年4月29日（火）～平成15年6月1日（日）（34日間）
会 場 北海道立文学館特別展示室
入場者 1,557人

本企画展では、フォスコ・マライーニ（イタリア 1912～）が民族調査で訪れた際に撮影した北海道の写真を中心に、南イタリア地方、チベット、カラコルム、ヒンドゥ・クシなどの写真作品を一堂に展示した。文化人類学者、写真家、登山家、山岳紀行家、日本研究者など、多くの素養あふれたマライーニの写真は、見る人に感動を与え、好評であった。

※企画展「木版の詩人・川上澄生と北海道～没後30年・出版物に見るその世界～」

会 期 平成15年6月17日（火）～平成15年7月3日（日）（17日間）
会 場 北海道立文学館特別展示室
入場者 1,084人

本展覧会は、版画家、詩人として著名な川上澄生の、北海道在住時の装幀・挿絵の仕事に着目し、没後30年を記念して実施された。短期間ではあったが、川上澄生による「装幀・挿絵」の分野に光をあてることにより、新たな澄生像を描くことができた。

※企画展「大いなる遺産から～和田徹三・長光太・近藤潤一 3氏を偲ぶ～」

会 期 平成15年8月30日（土）～9月13日（土）（13日間）
会 場 北海道立文学館特別展示室
入場者 525人

企画展「大いなる遺産から～和田徹三・長光太・近藤潤一 3氏を偲ぶ～」は、3氏の遺族から寄贈された資料の中から、貴重なものを精選して紹介した。棟方志功版画、草野心平直筆原稿、釈迦空歌軸などが展示され、あわせて3氏の業績が紹介された。

2 教育普及事業

(1) 文芸講演会（以下断りのない場合の会場はいずれも北海道立文学館講堂）

- ① 演 題 「林芙美子と周辺の女人たち」
講 師 宇治土公美津子（日本近代文学研究者）
日 時 平成15年7月19日（土）14時
入場者 95人
- ② 演 題 「私の中の〈海峡〉」
講 師 加藤 幸子（作家）
日 時 平成15年11月22日（土）14時
入場者 47人

(2) 文芸セミナー

- ① 演 題 「川上澄生の見た北海道」
講 師 平澤 秀和（書誌研究者）
日 時 平成15年6月21日（土）14時
入場者 85人
- ② 演 題 「画像による名品紹介～和田徹三・長光太・近藤潤一― 3氏を偲ぶ～」
講 師 平原 一良（当館事業課長）
日 時 平成15年9月6日（土）14時
入場者 61人
- ③ 演 題 「動物と絵本」
講 師 あべ 弘士（画家・絵本作家）
日 時 平成15年9月23日（火・祝）14時
入場者 88人
- ④ 演 題 百田宗治と北海道
講 師 佐藤 将寛（児童文学研究者）
日 時 平成16年3月6日（土）14時
入場者 98人

(3) 文芸講座等

- ① 演 題 「フォスコ・マラーニ～人と作品を語る～」※
講 師 杉本 誠（山岳写真史研究者）
日 時 平成15年4月29日（火・祝）14時
入場者 28人
- ② 演 題 「佐々木譲・近作を語る～史実と物語のはざままで～」※
講 師 佐々木 譲（作家）
日 時 平成15年7月11日（日）14時
入場者 82人
- ③ 演 題 林芙美子を見つめ直す「林芙美子の詩と短篇をめぐって」※
講 師 平原 一良（当館事業課長）
日 時 平成15年7月21日（月・祝）14時
入場者 37人

④ 生誕100年記念「林芙美子展」記念フォーラム※

日 時 平成15年7月26日(土) 18時～20時30分

会 場 かでる2.7大ホール

第一部 講演会

演 題 「林芙美子と昭和」

講 師 川本三郎(評論家)

第二部 フォーラム「昭和の文学と女性作家」

パネリスト 川本 三郎、近藤 裕子(東京女子大学助教授)

種田和加子(藤女子大学教授)、山口 昌男(文化人類学者)

司 会 神谷 忠孝(北海道文教大学教授・財団法人北海道文学館理事長)

⑤ 演 題 「林芙美子の北海道・樺太の旅をたどる」※

講 師 青柳 文吉(当館主任学芸員)

入場者 61人

⑥ 演 題 「文学館クリスマス・リーディング」※

日 時 平成15年12月13日(土) 18時00分

出 演 熊谷ユリヤ(札幌大学教授)ほか

会 場 北海道立文学館地階談話コーナー

入場者 68人

(4) 映像作品鑑賞のつどい(会場はいずれも北海道立文学館講堂)

① 作 品 「天の夕顔」

日 時 平成15年4月27日(日) 14時

入場者 101人

② 作 品 「浮雲」

日 時 平成15年7月20日(日) 14時

入場者 90人

③ 作 品 「めし」

日 時 平成15年8月17日(日) 14時

入場者 100人

④ 作 品 「蟹工船」

日 時 平成15年10月12日(日) 14時

入場者 95人

⑤ 作 品 「女性に関する十二章」
日 時 平成15年11月30日（日）14時
入場者 92人

⑥ 作 品 「海峡」
日 時 平成15年12月13日（日）13時30分
入場者 85人

(5)ファミリー文学館

① 「夏休み 文学道場～中・高生のための創作講座～」

期 間 平成14年7月30日（水）～8月1日（金）（3日間）

講 師 加藤 多一（児童文学者）、伊藤 遊（児童文学作家）

吉川 慶子（國學院短期大学講師）

会 場 北海道立文学館講堂

参加者 延べ51人（終了後に『夏休み文学道場作品集』を刊行。）

今年度の夏のファミリー文学館は、従来最も入館者層として少なかった中学生・高校生を対象とした短編小説の創作教室を実施した。「なぜ書くのか」「どう書くのか」にテーマを絞った講座は文学をめざす子どもたちにとって価値ある学習の場となった。

② 絵本原画展「あらしのよるに～あべ弘士絵本原画展～」

期 間 平成15年9月20日（土）～10月12日（日）（23日間）

会 場 北海道立文学館特別展示室及び講堂

入場者 3,076人

現代日本を代表する絵本画家の一人あべ弘士氏の絵本原画展。「あらしのよるに」シリーズ（文・木村裕一）全6巻の原画を展示した。楽しさの中にも生きることの悲しみを描いた本シリーズはミリオンセラーを記録しており、展覧会も、年齢や性別を超えた多くの観覧者で賑わった。

(6) 文学館こどもウィーク（美術館活性化事業）

① ワークショップ「『想いの種』を植えよう」

日 時 平成16年1月10日（土）～11日（日）

講 師 小林 重予（造形作家）

会 場 北海道立文学館講堂

参加者 延べ48人

② 展覧会「みりのの庭」

日 時 平成16年1月15日（木）～25日（日）（10日間）

観覧者 525人

③ 関連事業

・「紙きりパフォーマンス」

日 時 平成16年1月17日（土）14時
講 師 花りん（紙きり芸）
会 場 北海道立文学館特別展示室
入場者 11人

・「ギターデュオ ぼんぼち演奏会」

日 時 平成16年1月18日（日）14時
講 師 ぼんぼち（ギター）
会 場 北海道立文学館特別展示室
入場者 24人

・「リズムミック・タップダンス・ショー」

日 時 平成16年1月24日（土）14時
講 師 高橋 甲（ダンス）
会 場 北海道立文学館特別展示室
入場者 49人

・セミナー「想いの種が芽吹くとき」

日 時 平成16年1月25日（日）13時30分
講 師 小林重予（造形作家）
会 場 北海道立文学館講堂
入場者 69人

・朗読会「種の物語を読む」

日 時 平成16年1月25日（土）15時
講 師 西山美紀子（朗読）
会 場 北海道立文学館特別展示室
入場者 58人

(7) ～わくわく～こどもランド※

期 間 平成15年4月～平成16年3月（原則：各月第2土曜日11回）
会 場 北海道立文学館講堂
後 援 札幌市教育委員会、財団法人道銀文化財団
出 演 山の手図書館「おはなしかご」ほか
入場者 965人

就学前の幼児を主対象として、絵本の読み聞かせ、パネルシアター、人形劇、腹話術などバラエティーに富んだ演目を、地域のボランティアサークルの協力を得て実施した。

(8) 文学館ウィークエンド・カレッジ※

期 間 平成15年5月～平成16年3月（原則：各月第2,4土・日曜日）
講 師 柴村 紀代（児童文学者）ほか
会 場 北海道立文学館講堂
受講者 延べ600人

文学、芸術及び隣接諸分野に体系的にふれながらも、さらに高度な専門性を持つ内容を継続的に学習する場として開講している。

【内 容】

（前 期）

教 科	科 目	講 師
文 学	絵本論の世界 現代詩を読む－中原中也から	柴村 紀代（藤女子大学講師） 笠井 嗣夫（詩人・評論家）
外国文学	ロシア文学講読 イタリア文学を読む	工藤精一郎（ロシア文学者） 工藤とも子（イタリア文学者）
文化論	アート散策－イタリア都市散歩	柴橋 伴夫（美術評論家）
特別講座	現代日本文学全集（改造社） の宣伝活動について	山岸 郁子（日本大学助教授）

（後 期）

教 科	科 目	講 師
文 学	詩を読む 恋愛の文学史	笠井 嗣夫（詩人・評論家） 押野 武志（北海道大学助教授）
外国文学	ロシア文学講読 イタリア文学を読む	工藤精一郎（ロシア文学者） 工藤とも子（イタリア文学者）
文化論	アイヌ語で歌う ～砂沢クラさんの伝承歌～ 自分史を書く	深尾 加那（アイヌ民族文化伝承会「らぶらん」会員） 駒井 秀子（女性史研究）
特別講座	文学館de俳句吟行 北海道と有島武郎	辻脇 系一（俳句作家） 小田島本有（釧路工業高専助教授）

(9) 文学館ロビー・コンサート（会場はいずれも北海道立文学館地階談話コーナー）

① 「函館・青森海峡浪漫」津軽三味線ライブ※

日 時 平成15年11月15日（土）15時30分
演奏者 木村 善幸（太棹三味線）
入場者 124人

② 「ヴァイオリン・ファンタジア」※

日 時 平成15年12月21日（日）18時
演奏者 鎌田 泉（ヴァイオリン）・藤田 雅（ピアノ）
入場者 69人

III 北海道文学に関する調査研究事業

寄附行為第4条第3号に掲げる事業は、次のとおり行った。

- ① 企画展「フォスコ・マライーニ写真展」関連資料調査
- ② 川上澄生関連資料調査
- ③ 特別企画展「生誕100年記念 林芙美子展」関連資料調査
- ④ 特別企画展「函館・青森海峡浪漫～〈北の20世紀〉を紡いだ作家たち～」関連資料調査
- ⑤ 百田宗治関連資料調査
- ⑥ 掛川源一郎関連資料調査
- ⑦ 更科源蔵関連資料調査
- ⑧ 特別企画展・企画展の図録・リーフレット作成に要する調査
- ⑨ 久保栄関連資料調査

IV 文学愛好団体等の活動に対する支援事業

寄附行為第4条第4号に掲げる事業は、次のとおり行った。

次の団体の事業に対して、後援名義並びに主共催名義の使用を承認して支援した。

- ① 児童文学者協会北海道支部
北海道児童文学学校
(原則として4月～3月の第13木曜に開校 北海道立文学館講堂)
- ② 朗読とピアノとお話しを聞く会実行委員会
- ③ 星座の会(有島記念館友の会) 文学講演会
(平成15年5月10日 北海道立文学館講堂)
- ④ 北海道近代文学懇話会講演会 文芸講演会
(平成15年7月5日 北海道立文学館講堂)
- ⑤ 「noise of matter 魔が射す夏の…詩と音楽の…ノイズリーなコラボレーション」実行委員会
(平成15年7月6日 北海道立文学館サンクンガーデン)
- ⑥ 「たんぼdeミュージカル」上映及び「奥泉光・斉藤征義のトーク」実行委員会
(平成15年8月20日 北海道立文学館講堂)
- ⑦ 中川町教育委員会
「斎藤茂吉記念第10回中川町短歌フェスティバル」
斎藤茂吉特別展「白き山」のころ～大石田と斎藤茂吉
(平成15年9月2～28日 中川町エコミュージアムセンター)
- ⑧ 日本比較文学会 東北・北海道支部研究集会
シンポジウム2003《日ロ文化接触の100年》
(平成15年9月7日 北海道立文学館講堂)
- ⑨ 日本聞き書き学会
フォーラム、講習会、公開シンポジウム
(平成15年9月21日 北海道立文学館講堂)
- ⑩ 読売新聞社北海道支社
21世紀活字文化プロジェクト 講演：佐々木 譲(作家)
(平成15年10月12日 北海道立近代美術館講堂)

- ⑪ 更科源蔵文学賞の会
更科源蔵文学賞事業 第1回更科源蔵文学賞贈呈式
(平成15年10月12日 弟子屈町100年記念式典会場)
- ⑫ 山の手図書館おはなしかご
「大人が楽しむおはなし会」
(平成15年10月21日、16年3月11日 北海道立文学館講堂)
- ⑬ NHK文化センター朗読教室(松井信子クラス)
「北海道ゆかりの文学を読む」
(平成15年10月19日 北海道立文学館講堂)
- ⑭ NHKラジオ公開収録「北の文芸館」
公開収録「塩狩峠」ほか 講演「表現する力を持つために」(窪島誠一郎)
(平成15年10月26日 北海道立文学館講堂)
- ⑮ 古事記を読む会
「古事記語り部～音読と尺八響演コンサート～」
(平成15年10月13日 北海道立文学館講堂)
- ⑯ 多和田葉子×高瀬アキDUO札幌公演実行委員会
Reading×Piano 言葉と音楽 異色DUO 散文オペラ
(平成15年11月29日 北海道立文学館談話コーナー)
- ⑰ ホワイトコンサート実行委員会
ホワイトコンサートin札幌
(平成15年12月6日 北海道立文学館談話コーナー)
- ⑱ 高等学校文化連盟 文芸部・図書専門部会
(平成15年12月12日、5月23日、2月25日 北海道立文学館講堂)
- ⑲ 恵庭市
「カリンバ3遺跡展」
(平成15年12月20日～同26日 北海道立文学館特別展示室)
- ⑳ 北海道演劇財団
松岡和子(翻訳家・演劇評論家)講演会「シェイクスピアと『冬物語』」
(平成16年1月20日 北海道立文学館講堂)
- ㉑ 原子修・詩のあゆみ展実行委員会
「原子修・詩のあゆみ」展
(平成16年3月27日～4月10日 13日間 北海道立文学館特別展示室)

V 啓発広報事業

寄附行為第4条第5号に掲げる事業は、次のとおり行った。

- ① 施設案内、常設展リーフレット、各展覧会ポスター・ちらし及び講演会・セミナーちらし等を制作・発行。
- ② 広報誌「サンクンガーデン」第16号(平成16年3月)の編集発行。
- ③ 「北海道文学館報」第58号(平成15年7月)、59号(同12月)の編集発行。

VI 刊行物の刊行事業

寄附行為第4条第6号に掲げる事業は、次のとおり行った。

- ① 特別企画展「生誕100年記念 林芙美子展」図録の刊行。
- ② 特別企画展「生誕100年記念 林芙美子展」短編集の刊行。
- ③ 特別企画展「函館・青森 海峡浪漫」図録の刊行。
- ④ 『知里幸恵「アイヌ神謡集」への道』の編纂

VII 北海道立文学館の管理運営受託事業

寄附行為第4条第7号による北海道立文学館の管理運営は、北海道と当財団との間に交わされた委託契約（4月1日締結）に基づき、適切に行った。

VIII その他の付帯事業

- ① 博物館学芸員実習生の受け入れ及び実習指導

平成15年8～9月に10日間、北海道武蔵女子短期大学学生（1人）と札幌大学学生（1人）、北海道大学大学院生（2人）の計4人に対して行った。また、11月に北海道大学生の「博物館実習（見学実習）」で14人、札幌大学学芸員課程見学実習で46人を受け入れた。

- ② 古書バザールの実施

平成15年4月～同16年3月、文学館地階ロビーで通年実施（古書バザール実行委員会）